

1000年先にいのちはつづく

祝の島

ほうりのしま

原発予定地から
朝陽が昇る
島のいちにちが
今日も始まる

はなぶさ
瀬瀬あや初監督作品 プロデューサー 本橋成一
撮影 大久保千津奈(KBC映像) / 編集 四宮鉄男 / 音響設計 菊池信之 / ナレーション 斉藤とも子
製作デスク 中植きさら / 製作統括 大槻貴宏 / 製作 ホレホレタイムズ社 2010年/日本 / 105分

絵 西村繁男

1000年前、沖で難破した船を助けたことから
農耕がもたらされ、子孫が栄え、
現在に至るまでいのちをつないできた
小さな島がある。



山口県上関町祝島。

瀬戸内海に浮かぶこの島は、
台風が直撃することも多く、
岩だらけの土地には確保できる真水も限られ、
人が暮らしやすい環境とは
決していえない。

その中で人々は、
海からもたらされる

豊かな恵みに支えられ、
岩山を開墾し、暮らしを営んできた。

そして互いに助け合い、

分かちあう共同体としての結びつきが育まれた。
人間の営みが自然の循環の一部であることが、
祝島でははっきりと見える。

「海は私たちのいのち」と島の人は言う。

一九八二年、島の対岸四キロメートルに

原子力発電所の建設計画が持ち上がった。

「海と山さえあれば生きていける。」

だからわしらの代で海は売れん」とい
う祝島の人々は、

以来二八年間反対を続けている。

効率と利益を追い求める社会が生み出した原発。

大きな時間の流れと共にある島の生活。

原発予定地と祝島の集落は、

海を挟んで向かい合っている。

一〇〇〇年先の未来が

今の暮らしの続きにあると思うとき、

私たちは何を選ぶのか。

いのちをつなぐ暮らし。

祝島にはそのヒントがたくさん詰まっている。



我々はテクノロジーに振り回されている。
もっと便利になりますよ、
と耳元で囁く声にうかうかと乗っている。
目を覚ますためにはこの映画を見るのがいい。
おっとりとした日々の記録の中に
とても大事なことが隠されているのに気づいた時、
あなたは凜然とするだろう。
老人たちの顔に過去ではなく未来を読み取るだろう。

池澤夏樹 作家

「祝の島」公式ホームページ <http://www.hourinoshima.com/>

撮影 大久保千津奈 (KBC 映像) / 編集 四宮鉄男 / 音響設計 菊池信之 / ナレーション 齊藤とも子 / 絵 西村幹男
グラフィックデザイン 森デザイン室 / 宣伝 ブラウニー / 制作 石川翔平 / 製作デスク 中嶋ささら
製作総務 大槻貴宏 / 協力 祝島のみなさん、KBC 映像、祝島島民の会、映画「祝の島」を応援する会 / 製作 ポレボレタイムズ社

監督 ^{はな} ^{ぶさ} 瀬瀬あや プロデューサー 本橋成一

11/24 [日] 13:30 ~ 本橋成一 プロデューサーのトークあり

料金 / 1500 円 (前売り : 1200 円) 場所 / 岡山市立オリエント美術館

問合せ / 日高 090-5378-5433

hidakatn@green.megaegg.ne.jp